

# ピアホームだより

2018. 6. 10

## 家族のための統合失調症入門から

当所顧問医白石先生の名著が時代に合せて手を加えられ、増補新版として頂きました。

支援者にとっても同じ視点になりますので、ホームでどう支援していくのが良いのか？困っているあるいは迷っている事例を挙げて、教科書を参照しながら考えてみます。

### 事例1)できそうなのに現在行っていない

ポイントー変化を望まない人は、変化がこれから生じると意識するだけで、病状まで悪化させることがある。

支援のポイントは本人がやれると言う気持ちになれるかどうかにかかっています。繰り返し粘り強く説明する。経験交流などです。もう一つは新しい環境に慣れるということです。

### 事例2)巻き込まれない(強迫症状)

当事者の方は、気が弱くなっていることが多く、ちょっとしたことで「自分は出来ない」と思いがちです。当事者がやるべきことをやらず、ま

たはやってはいけないことを要求してくるとき、その要求に応じれば応じるほど、ますます援助を期待し依存的になってしまい、援助が得られない場合には暴力的な行為に及ぶことも考えられます。その時の症状に応じてできることは自分であることが大切です。

### 事例3)感謝し、励まし、後ろ盾になる

(文引用)

アルバイトを希望しているWさんが、ちょっと無理と思われる仕事を希望して来ました。私は、話を聞き考えも言い、条件を少し軽くしてもらった後、「大丈夫だと思うから是非やってみたら」と言いました。その後、Wさんが1週間で辞めたと言って来た時、「大丈夫だと思って進めたけど、見方が甘くてあなたに辛い思いをさせたかもしれないね」「でも、一週間も勤められてよかった。この経験を活かしてまた挑戦しよう」と言ってねぎらいました。

私は、経験から学べる部分を指摘しつつ、長く続かなかったことの責任の半分を引き取るようにしています。

失敗を責めるより、患者さんの後ろ盾になってかばいながら、本人が自らやる気を出せるような状況をつくるのが大切です。

## Hさん卒業

宿泊生活訓練施設サンライズー3年、当ピアホーム通過型3年・滞在型3年を経て、地域での生活に移行することになりました。

症状の重い方で、怪我もされていて歩行に一定程度障害もあり、当初はホームなどで出来るだけ長く地域生活を送ることが目標でした。

ここ2年ほど、世話人の支援の工夫とそれに応えるようになってきた本人の努力が実を結び、目覚ましい進展がありました。

本人も自信をつけ、強くアパート暮らしを望むようになって来ましたので、主治医・支援者一同集まり、評価も行い、様々な支援を組み合わせ、地域でアパート暮らしをして行けるよう取り組むことになりました。

アパート探しは、精神障害者には厳しい現状でした。練馬区と連携をとっている事業者にお任せして、駅近いマンションという思いがけない部屋に入居できました。荷造りもこつこつやっています。電気・水道・ガスの手続きもきっちり自分でした。Hさん頑張れ！

## 今月の予定

<6月14日>Sさんのカンファ

<6月22日>N山さんカンファ